

2021

コースガイド

文芸コース



学校法人 瓜生山学園

京都芸術大学 通信教育課程

はじめに——文芸コースの理念

豊かなよろこびを得るために、またつらい苦しみを乗り越えるために文芸（詩、物語、小説、戯曲、エッセイ、評論）を読みたい。みずからの経験や感情、思考を他者に伝えるために文芸を書きたい。そして、そのような志向を持つ人びとと意見を交換し、おたがいに尊重し合いながら文芸の知識と技術を身につけたい。——そう思うすべての人びとに、文芸コースの扉は開かれています。

京都芸術大学の通信教育部の中にある文芸コースには、より良き市民が身につけておくべき一般的な知識はもちろんのこと、広く芸術に興味と愛着を抱くための知識や見識を養う科目群が用意されています。それらを基盤にして、文芸の世界に踏み込んでいきます。つまり、古典から現代まで、日本から海外の広きにわたり、さまざまなジャンルを渉猟して文芸作品を「読む」科目群があり、さらに文芸を語り、自ら文芸作品を「書く」ために必要な技術や理論を修得する科目群があります。スクーリングや、幾度もやりとりされる課題と文芸創作に記された教員の懇切丁寧な添削が、学習を継続させる支えになるでしょう。もちろん、学生一人ひとりの自律した学習への取り組みと、同じく文芸を愛する学生同士の実りある交流が欠かせません。

写真家セバスチャン・サルガドは「エッセイ」と題する彼の写真展にむけて次のようなメッセージを寄せています。

「歴史は、際限のない抑圧と蔑^{さげす}みと荒廃と破壊の繰り返しだ。しかしもう一方で歴史は、人間という動物が生き延びる術を無限にもっていることを示している。歴史のなかで孤独な夢などありえない」

ここでサルガドのいう「人間が無限にもっている生き延びる術」のひとつが、芸術でしょう。その芸術の一角を文芸は確かに担っています。文芸はけっして1冊の書物の中に閉じ込められた「慰め」ではないし、ひとりの作家の孤独な夢でもない。人びとの誰もが共有することのできる夢であり、人生をサバイバルするための活力を与えてくれるエネルギー源です。

文芸コースで定められた学習と年限を修了して、文章を読む力と書く力を確かなものにしたいうえで、文芸を介してみずからと他者の人生を充実させ、さらに社会に貢献できる人間となることがみなさん一人ひとりに求められています。

目次

1. 学習を進めるにあたって	2
2. 文芸コースでの学習の進め方	3
3. 2021年度の主な変更事項および注意点	4
4. 専門教育科目一覧	5
5. 卒業要件、卒業研究着手要件	7
6. 新旧科目対応表	11
7. カリキュラムマップ	12
8. 芸術学科専門教育科目 スクーリング日程	14
9. 文芸コース専門教育科目 スクーリング日程	15
10. 履修モデル	16
11. 過去の「卒業成果物」閲覧申込	21
12. 論文研究・卒業研究	22
13. 文芸コース提出物の指針	24
14. 日本語表記の標準的なルール	29

コースガイドを使って履修計画をたてましょう

通信教育では通学制と異なり自分で履修プランをたて学習をすすめることが重要です。入学許可後は、『学習ガイド』やシラバスを確認して履修計画をたてましょう。airUマイページでは履修プランを作成することができます。



本学通信教育課程では「履修登録」がありません。年度途中に新規科目に取り組むことも可能です。また、履修状況や学習環境の変化によって履修プランをたてなおし、学習をすすめていくことができます。

1. 学習を進めるにあたって

学習を進めるにあたっては、『学習ガイド』もあわせて参照してください。

1. 履修形態

▶『学習ガイド』pp.11～13参照

通信教育課程における開講科目は、「テキスト科目」と「スクーリング科目」に大きく分けられます。
本学通信教育課程では、自宅学習や対面授業、レポートや作品など課題によって科目の形態が6種類あります。

テキスト科目	TR	テキストレポート科目	レポート課題と単位修得試験のある科目	自宅学習
	TW	テキスト作品科目	作品課題の科目	
	TX	テキスト特別科目	卒業関連科目、論文研究など特別な科目	
スクーリング科目	WS	ウェブスクーリング科目	Web上での動画学習とレポート試験／作品課題がある科目	対面／遠隔授業
	S	スクーリング科目	対面／遠隔授業のある科目	
	GS	藝術学舎科目	本学が開講する公開講座藝術学舎を受講する科目	

2. 履修期間・課題提出期間

▶『学習ガイド』p.11、pp.32～64参照

それぞれ3ヶ月タームで履修の区切りがあります。課題提出期間は科目区分によって決まっています。

課題提出・単位修得試験スケジュール		春期			夏期			秋期			冬期		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TR	テキストレポート科目	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～30		試験 1～8	レポート 21～31		試験 1～8
TW	テキスト作品科目	作品 11～20	作品 11～20		作品 11～20	作品 11～20		作品 11～20	作品 11～20		作品 11～20	作品 11～21	
TX	テキスト特別科目	課題の提出期間は科目により設定されます。											
WS	Webスクーリング科目		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20		レポート 21～28	最終講評 13～20
S	スクーリング科目		夏期先行募集 17～25			秋期先行募集 17～25			冬期先行募集 17～25				2022年度 春期先行募集 3月下旬
		春期追加募集 12～(開講30～5 日前)		夏期追加募集 10～(開講30～5 日前)		秋期追加募集 10～(開講30～5 日前)			冬期追加募集 10～(開講30～5 日前)				
GS	藝術学舎科目		夏季申込 5月初旬～			秋季申込 8月初旬～			冬季申込 11月初旬～			2022年度 春季申込 2月中旬～	

・対面の単位修得試験の今年度の試験実施日と受験申込期間は『学習ガイド』pp.41～42を参照してください。

卒業判定にかかる方は卒業関連科目以外の科目を冬期（1月～3月）に履修することはできません。

※ただし、卒業要件の必修TR・TW科目において、秋期（10月～12月）のレポート・作品課題もしくは単位修得試験が不合格かつ当該科目以外の卒業要件を充たす見込みの方に限り、冬期の履修を認めることがあります。

詳細は『学習ガイド』p.68を確認してください。

※東京オリンピック・パラリンピック開催期間中は、一部地域において郵便・配達等の遅れが生じる場合があります。

3. 課題提出方法

▶『学習ガイド』pp.33～36参照

課題提出形態は「airU」「郵送」「窓口」の3種類です。科目により「airU」のみで受け付けるもの、「郵送」または「窓口」のみで受け付けるものもあります。それぞれの締切日の到着は、「airU」は13時までに大学のサーバーに着信済、「郵送」は本学に必着、「窓口」は京都・瓜生山キャンパス通信教育課程事務局窓口にて17時までに受付済、と定められています。

4. 単位修得試験

▶『学習ガイド』pp.40～45参照

テキストレポート科目（TR）では、レポート合格後に単位修得試験が受験可能です。単位修得試験はWeb（airUマイページ）と対面（京都・東京）で受験できます。なお、レポート課題提出形態によって、受験方法が異なり、airUマイページでレポートを提出した場合はWeb受験、郵送・窓口でレポートを提出した場合はWebまたは対面どちらかで受験します。

5. スクーリングの申し込み方法・キャンセル

▶『学習ガイド』pp.49～56参照

スクーリング科目（S）の申し込みは3ヶ月ごとに募集を行います。申込スケジュールを確認し、期日内にairUマイページまたは郵送・窓口より手続きしてください。また、受講許可後はキャンセル時期により10～100%のキャンセル料が発生します。

6. 藝術学舎科目

▶『学習ガイド』p.65参照

年4回3ヶ月ごとの季に分けて開講している一般公開講座です。講座を受講することで通信教育部で有効な単位の修得が可能です。詳細は、藝術学舎Webサイト、パンフレットを参照してください。藝術学舎の単位認定に関しては『学習ガイド』pp.70～72を確認してください。

2. 文芸コースでの学習の進め方

1. 履修計画の立て方

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目がどのように配置されているのか、各科目の関係性を示した図「カリキュラムマップ」(pp.12~13)を確認し、履修計画の参考にしてください。

- ・総合教育科目…興味のある科目を自由に履修。必修科目はありません。
 - ・学部共通専門教育科目…興味のある科目を自由に履修。2015年度以降入学生は12単位以上必修。
 - ・芸術学科専門教育科目
 - ・文芸コース専門教育科目
- カリキュラムマップを参考にしましょう。

本年度に入学されたみなさんは、カリキュラムマップのうち、まずSTEP1の科目群の入門科目から履修しましょう。同じ枠内に記載されているテキスト科目とスクーリング科目を並行して学習することでよりいっそう理解を深めることができます。3年次編入学生が2年間で卒業を目指す場合は1年目にSTEP1・STEP2の科目群を中心に履修することに加えて「論文研究Ⅰ-1~2」「論文研究Ⅱ-1~2」も履修してください。

2. スクーリング科目とテキスト科目の効果的な学び方

前述したように、新入生のみなさんはSTEP1の入門科目であるスクーリング科目「文芸入門」「文章表現基礎」、そしてテキスト科目「文芸演習Ⅰ-1(創作初歩)」をできるだけ初年度に履修するようにしてください。文芸の最も基礎的な知識や技術を対面授業で学び、それを自宅学習の課題作成に実践的に活かすという方式により、今後の学習をより効果的なものとします。これ以外にも、同年度にセットで履修することが望ましい科目群があります。①スクーリング科目「文芸Ⅰ-4(小説の構造)」「文芸Ⅱ-4(小説の技法)」とテキスト科目「文芸演習Ⅰ-2(短編小説を書く1)」、②スクーリング科目「文芸Ⅲ-1(エッセイ)」とテキスト科目「文芸演習Ⅱ-3(エッセイを書く)」、③スクーリング科目「インタビューと取材の方法論」(芸術学科専門教育科目)とテキスト科目「文芸演習Ⅱ-2(インタビューして書く)」、以上はまずスクーリングで知識・技術を学び、それを自宅学習でテキスト課題に活かすという実践的な学習をもたらします。

なお、「文芸Ⅰ-2(外国文学)」は、本学大学院芸術環境専攻の科目を文芸コース学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

3. コース専門教育科目以外からも学ぶ

コース専門教育科目以外にも、学科専門教育科目、学部共通専門教育科目、総合教育科目が用意されています。これらの科目を合わせて履修することによって、より幅広い知識・教養を身につけることができます。そうすることで、コース関連科目の理解もさらに深まるはずです。

また、一般公開講座「藝術学舎」でもコースの学修に関連する講座が春夏秋冬の四季ごとに開講されています。それらは本学通信教育部の単位として認定されるものが多数あります。コースの授業とはまた角度が違う多彩な内容になっていますので、各季に発行されるパンフレットで講座内容を確認した上で受講されることをお勧めします。

3. 2021年度の主な変更事項および注意点

1. 講義系スクーリングの授業時間

基本は1日目3講時+2日目5講時（0.5講時の授業後試験含む）です。ただし、一部の科目では1日目と2日目で各4講時ずつの場合や、フィールドワークや遠隔の科目などでは不規則な授業時間となるため、必ず各科目のシラバスを確認してください。

2. 一部スクーリング科目の遠隔化について

一部のS科目において、以下のような形態で遠隔授業を実施します。

- ・開講地が「遠隔」のもの
全講時をオンデマンド動画視聴やZoomでのリアルタイム授業（またはその組み合わせ）で実施。
- ・開講地が「京都・遠隔」「東京■・遠隔」「学外■・遠隔」のもの
対面の授業に加えて、事前課題や事後課題においてインターネット環境の利用が必要になります。※スクーリング当日の授業は対面のため、受講料は「対面」と同額です。

3. スクーリングレポートの提出方法が原則「airUのみ」になります。

airUからの提出が難しい課題のみ、郵送・窓口提出を併記しています。

なお、2020年度以前に入学された方でairUからの提出が難しい方は、各科目の受講許可後にコンシェルジュまでご相談ください。

※提出方法以外で不明な点については受講申込前にお問い合わせください。

4. スクーリング名の表記について

これまで、「科目名」+a、b、c・・・と表記していましたが、2021年度よりK（京都）、T（東京）、E（遠隔）で表記します。

※KやTの場合も、事前・事後のオンライン学習が付随する科目があります。オンライン学習の有無については、受講申込前に必ずシラバスを一読し授業内容を確認してください

【遠隔化にかかわるサポート】

- ・「卒業要件」「卒業研究着手要件」にかかわる科目が遠隔開講の場合、2020年度以前に入学の方でインターネット環境の利用が難しい場合は、個別に事務局までご相談ください。
- ・airUマイページやZoom等の基本的な利用方法については、ガイダンスや資料等を準備しています。随時airUマイページ「お知らせ」で周知していきますのでご確認ください。なお総合教育科目に「オンライン授業入門」を開講していますが、これまでにパソコンやインターネットを利用したことがない方に向けた内容になっています。ガイダンス資料等と重複する内容も多いことをあらかじめご了承ください。

4. 専門教育科目一覧

卒業に必要な単位に関しては、本コースガイドpp.7～10をお読みください。

入学年度によって卒業要件が□新要件、■旧要件、△旧々要件となりますので、それぞれの要件の履修を行ってください。

□新要件	2019年度以降入学（1年次入学、3年次編入学）
■旧要件	2015～2018年度入学（1年次入学、2・3年次編入学）
△旧々要件	2014年度以前入学（1年次入学、2・3年次編入学）

科目一覧						卒業要件(注1)									配当 年次 (注3)
						■新要件		■旧要件			△旧々要件				
科目群	科目 区分	科目 コード	科目名(注2)	単位 数	S ／ T	1年次入学 124単位以上 (専門60単位 以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位 以上)	1年次入学 124単位以上 (専門60単位 以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位 以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門36単位 以上)	1年次入学 124単位以上 (専門60単位 以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門52単位 以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門36単位 以上)		
専門教育科目	芸術学科専門教育科目	50251	芸術学基礎	2	TR									1年次～	
		50252	美術史学基礎 ※2019年度新設	2	TR										
		50253	地域芸術理論 ※2019年度新設	2	TR										
		50254	京都学入門	2	TR										
		50255	史科学基礎	2	TR										
		50256	史料講読基礎	2	TR										
		50257	文化批評概論 ※2019年度新設	2	TR	●	●								
		50264	日本文化の源流	2	TR										
		50265	日本文化と東アジア	2	TR										
		50266	日本の生活文化	2	TR										
		50101	芸術学概論	1	S										
		50102	日本美術論	1	S										
		50103	西洋美術論	1	S										
		50104	アジア美術論	1	S										
		50105	美術史学概論 ※2019年度新設	1	S										
		50106	音楽文化論	1	S										
		50107	京都の歴史	1	S										
		50108	文献資料講読	1	S										
		50109	京都学研修1 ※2019年度新設	1	S										
		50110	京都学研修2	1	S										
		50111	江戸の歴史	1	S										
		50112	神話学入門 ※2019年度新設	1	S										
		50113	世界の古典を読む	1	S	●	●								
		50114	日本の古典を読む	1	S										
		50115	京都の文芸	1	S										
		50116	短歌と俳句	1	S										
		50117	インタビューと取材の方法論	1	S	●	●								
		50219	伝統芸能の諸相	1	S										
		50220	伝統芸能と工芸	1	S										
		50222	詩歌と日本文化	1	S										
		50223	花道文化の展開	1	S										
		50224	伝統文化の空間	1	S										
		50225	室礼ともてなし	1	S										
			仏教美術論 ※2018年度まで開講	2	S										
			文化芸術遺産フィールドワーク 1 ※2018年度まで開講	1	S										
			文化芸術遺産フィールドワーク 2 ※2018年度まで開講	1	S										
			文化芸術遺産フィールドワーク 3 ※2018年度まで開講	1	S										
			文化芸術遺産フィールドワーク 4 ※2018年度まで開講	1	S										
			地域芸術学フィールドワーク ※2018年度まで開講	1	S										
			絵画と日本文化 ※2018年度まで開講	1	S										
	茶道文化の展開 ※2018年度まで開講	1	S												
50268	論文研究基礎演習	2	TX										2年次～		
50227	論文研究基礎	1	S												
50232	論文研究特論	1	S										3年次～		
50271	論文研究Ⅰ-2	1	TX	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
50272	論文研究Ⅱ-2	1	TX	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
50230	論文研究Ⅰ-1	1	S	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
50231	論文研究Ⅱ-1	1	S	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
50267	論文研究Ⅲ	2	TX										4年次		
50692	卒業研究	8	TX	●	●	●	●	●	●	●	●	●			

科目一覧						卒業要件(注1)									配当年次 (注3)		
科目群	科目区分	科目コード	科目名(注2)	単位数	S / T	■新要件		■旧要件			△旧々要件						
						1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位以上)	1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門36単位以上)	1年次入学 124単位以上 (専門60単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門52単位以上)	3年次編入学 62単位以上 (専門36単位以上)				
専門教育科目	コース専門教育科目		文芸基礎講義 ※2018年度まで開講	2	TX											1年次～	
			文芸論Ⅰ-1 ※2018年度まで開講	2	TR												
			文芸論Ⅰ-2 ※2018年度まで開講	2	TR												
			文芸論Ⅱ-1 ※2018年度まで開講	2	TR												
			文芸論Ⅱ-2 ※2018年度まで開講	2	TR												
		53636	文芸論Ⅱ-3	2	TR	●	●										
		53637	文芸論Ⅱ-4	2	TR	●	●										
		53638	文芸論Ⅱ-5	2	TR												
		53639	文芸演習Ⅰ-1	2	TR	●	●	●	●								
		53640	文芸演習Ⅰ-2	2	TR	●	●	●	●								
		53641	文芸演習Ⅱ-1	2	TR												
		53642	文芸演習Ⅱ-2	2	TR	●	●										
		53643	文芸演習Ⅱ-3	2	TR	●	●										
		53101	文芸入門	1	S	●	●	●	●								
		53118	文章表現基礎	1	S	●	●	●	●								
		53119	文芸Ⅰ-1	1	S	●	●	●	●								
		53120	文芸Ⅰ-2	1	S	●	●	●	●								
		53121	文芸Ⅰ-4	1	S	●	●	●	●								
			文芸Ⅱ-1 ※2018年度まで開講	2	S												
		53122	文芸Ⅱ-3	1	S												
		53123	文芸Ⅱ-4	1	S	●	●										
		53124	文芸Ⅲ-1	1	S	●	●										
		53125	文芸Ⅲ-3	1	S	●	●										
		53126	文芸Ⅲ-4	1	S												
			文芸実践 ※2018年度まで開講	1	S												
その他	総合教育科目・学部共通専門教育科目・コース専門教育科目・資格関連科目などから自由に選択。																
総合計						124単位以上	62単位以上	124単位以上	62単位以上	62単位以上	124単位以上	62単位以上	62単位以上				

※TR：テキストレポート科目、TX：テキスト特別科目、S：スクーリング科目、●：必修科目

注1) 科目名：2018年度まで旧科目名で開講していた科目は、p.11の新旧科目対応表で確認してください。旧科目名で単位修得済の場合、履修することはできません。

注2) 配当年次：スムーズに履修がなされるための規定であり、その年次に到達しないと履修はできません。さらに科目に別途履修条件がある場合は、その条件を満たす必要があります。

5. 卒業要件、卒業研究着手要件

「卒業要件」とは、卒業するために定められている最低単位数や必修科目のことです。
文芸コースの場合は、その必修科目の一つが「卒業研究」です。
「卒業研究」に着手するためには、その前年度末までに、いくつかの要件を満たしておかなければなりません。
これを「卒業研究着手要件」といいます。

「卒業要件」や「卒業研究着手要件」は入学区分によって、以下のように定められています。自分の希望の年度にこの要件を満たし、「卒業研究」に着手できるよう、また卒業できるよう、pp.16～20の履修モデルを参考に、計画的に学習に取り組んでください。

■新要件（2019年度以降入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群		修得すべき単位数		備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位 以上	T科目： 12単位 以上	「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」 必修
				S科目： 6単位 以上	「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」 必修
	その他（注1）		58単位以上		
	合計		90単位以上		3年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位 以上	T科目： 24単位 以上	「文化批評概論」「文芸論Ⅱ－3」「文芸論Ⅱ－4」 「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「文芸演習Ⅱ－2」「文芸演習Ⅱ－3」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」「卒業研究」 必修
				S科目： 12単位 以上	「世界の古典を読む」「インタビューと取材の方法論」 「文芸入門」「文章表現基礎」 「文芸Ⅰ－1」「文芸Ⅰ－2」「文芸Ⅰ－4」 「文芸Ⅱ－4」「文芸Ⅲ－1」「文芸Ⅲ－3」 「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」 必修
	その他（注1）		64単位以上		
	合計		124単位以上		S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門60単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群		修得すべき単位数		備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位 以上	T科目： 12単位 以上	「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」 必修
				S科目： 6単位 以上	「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」 必修
	合計	32単位以上		1年以上在学していること（休学期間を除く）	
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位 以上	T科目： 24単位 以上	「文化批評概論」「文芸論Ⅱ－3」「文芸論Ⅱ－4」 「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「文芸演習Ⅱ－2」「文芸演習Ⅱ－3」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」「卒業研究」 必修
				S科目： 12単位 以上	「世界の古典を読む」「インタビューと取材の方法論」 「文芸入門」「文章表現基礎」 「文芸Ⅰ－1」「文芸Ⅰ－2」「文芸Ⅰ－4」 「文芸Ⅱ－4」「文芸Ⅲ－1」「文芸Ⅲ－3」 「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」 必修
	その他（注1）	2単位以上			
	合計	62単位以上		S科目24単位以上	

■旧要件（2015～2018年度入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群		修得すべき単位数		備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位 以上	T科目： 12単位 以上	「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」 必修
				S科目： 6単位 以上	「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」 必修
	その他（注1）		58単位以上		
	合計		90単位以上		3年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位 以上	T科目： 24単位 以上	「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」「卒業研究」 必修
				S科目： 12単位 以上	「文芸入門」「文章表現基礎」 「文芸Ⅰ－1」「文芸Ⅰ－2」「文芸Ⅰ－4」 「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」 必修
	その他（注1）		64単位以上		
	合計		124単位以上		S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門60単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群		修得すべき単位数		備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	24単位 以上	T科目： 12単位 以上	「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」必修
				S科目： 6単位 以上	「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」必修
	合計		32単位以上		1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上		
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目	48単位 以上	T科目： 24単位 以上	「文芸演習Ⅰ－1」「文芸演習Ⅰ－2」 「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」「卒業研究」必修
				S科目： 12単位 以上	「文芸入門」「文章表現基礎」 「文芸Ⅰ－1」「文芸Ⅰ－2」「文芸Ⅰ－4」 「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」必修
	その他（注1）		2単位以上		
	合計		62単位以上		S科目24単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門36単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目18単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群		修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	8単位以上	
		芸術学科専門教育科目	T科目： 4単位以上	「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」必修
		コース専門教育科目	S科目： 6単位以上	「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」必修
	その他（注1）		10単位以上	
	合計		28単位以上	1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	12単位以上	
		芸術学科専門教育科目	T科目： 12単位以上	「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」 「卒業研究」必修
		コース専門教育科目	S科目： 12単位以上	「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」必修
	その他（注1）		26単位以上	
	合計		62単位以上	

▲旧々要件（2014年度以前入学）

1年次入学（卒業要件124単位以上）

	科目群		修得すべき単位数	備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	38 単位 以上	T科目：20単位以上 S科目：6単位以上 「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」 必修（注2）
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目		
	その他（注1）		52単位以上	
	合計		90単位以上	3年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	60 単位 以上	T科目：28単位以上 S科目：12単位以上 「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」 「卒業研究」必修（注2）
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目		
	その他（注1）		64単位以上	
	合計		124単位以上	S科目30単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門52単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目6単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群		修得すべき単位数		備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	32 単位 以上	T科目：20単位以上	「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」 必修（注2）
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目		S科目：6単位以上	
	合計		32単位以上		1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	52 単位 以上	T科目：28単位以上	「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」 「卒業研究」必修（注2）
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目		S科目：12単位以上	
	その他（注1）		10単位以上		
	合計		62単位以上		S科目24単位以上

3年次編入学（卒業要件62単位以上、専門36単位以上）

「入学許可証・卒業要件通知」の総合計に「履修免除62単位（うちスクーリング科目18単位）」の記載がある方は以下に該当します。

	科目群		修得すべき単位数		備考（左記のうち、修得すべき科目など）
卒業研究 着手要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	T 科目：16単位以上 S 科目：4単位以上		「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」 必修（注2）
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目			
	その他（注1）		8単位以上		
	合計		28単位以上		1年以上在学していること（休学期間を除く）
卒業要件	専門 教育科目	学部共通専門教育科目	36 単位 以上	T 科目：24単位以上 S 科目：12単位以上	「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」 「卒業研究」必修（注2）
		芸術学科専門教育科目 コース専門教育科目			
	その他（注1）		26単位以上		
	合計		62単位以上		

注1:「その他」については、総合教育科目・学部共通専門教育科目・学科専門教育科目・コース専門教育科目・資格関連科目などから自由に選択し、合計単位数を満たすこと。

注2:以下の科目を修得している場合は、これに替えるものとする。

「論文研究Ⅰ－1～2」:「論文研究1」（2014年度まで開講）

「論文研究Ⅱ－1～2」:「論文研究2」（2014年度まで開講）

※2年次編入学（旧要件のみ）の卒業研究着手要件および卒業要件について、専門教育科目の単位数は3年次編入学（旧要件：卒業要件62単位・専門52単位以上）と同じ。

ただし、着手要件については合計が50単位以上、かつ2年以上在学していること（休学期間を除く）。卒業要件は合計84単位以上であること。

6. 新旧科目対応表

下表の「旧科目名」で単位修得済の科目は「新科目名」で再履修することはできません。

■芸術学科専門教育科目

2018年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
51618	芸術学演習Ⅰ－1(芸術学基礎演習)	TX	2
52622	歴史遺産基礎講義1	TR	2
52106	歴史遺産学研修6(京都の祭)	S	1
52109	歴史遺産Ⅰ－3(江戸文化論)	S	2
53104	文芸Ⅰ－3(世界の古典)	S	2
53107	文芸Ⅱ－2(短歌・俳句・近現代詩)	S	2
53111	文芸Ⅲ－2 (インタビューと調査で書く・ネットメディアに書く)	S	1
53114	文芸Ⅲ－5(文芸の京都)	S	1
50215	文化史特論	S	2

2014年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
50011	芸術学概論	S	2
50010	歴史遺産学概論	S	2
50061	文芸研究1	S	2
50071	伝統文化研究Ⅰ－1	S	1
50072	伝統文化研究Ⅰ－2	S	1
50073	伝統文化研究Ⅰ－3	S	1
50074	伝統文化研究Ⅰ－4	S	1
50075	伝統文化研究Ⅱ－1	S	1
50076	伝統文化研究Ⅱ－2	S	1
50077	伝統文化研究Ⅱ－3	S	1
50078	伝統文化研究Ⅱ－4	S	1

■文芸コース専門教育科目

2014年度まで			
旧科目コード	旧科目名	ST	単位数
53601	文芸基礎1	T	1
53001	文芸基礎2	S	1
50031	文芸講義1	S	2
53032	文芸講義2	S	2
53033	文芸講義4	S	2
53019	文芸研究6	S	2
53020	文芸研究16	S	2
53015	文芸研究11	S	2
53036	文芸講義7	S	1
53021	文芸研究17	S	1
53393	文芸研究14	ST	2
53622	文芸講義8	T	2
53603	文芸研究2	T	2
53604	文芸研究4	T	2
53605	文芸研究5	T	2
53625	創作演習10	T	4
53611	創作演習1	T	2
53612	創作演習2	T	4
53613	創作演習3	T	4
53615	創作演習5	T	4
53023	文芸研究20	S	2
53391	論文研究1	ST	2
53392	論文研究2	ST	2

2019年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
50251	芸術学基礎	TR	2
50254	京都学入門	TR	2
50110	京都学研修2	S	1
50111	江戸の歴史	S	1
50113	世界の古典を読む	S	1
50116	短歌と俳句	S	1
50117	インタビューと取材の方法論	S	1
50115	京都の文芸	S	1
50232	論文研究特論	S	1

2015年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
50202	芸術学概論	S	2
50213	歴史遺産学概論	S	2
50217	日本の古典を読む	S	2
50219	伝統芸能の諸相	S	1
50220	伝統芸能と工芸	S	1
50221	絵画と日本文化	S	1
50222	詩歌と日本文化	S	1
50223	花道文化の展開	S	1
50224	伝統文化の空間	S	1
50225	室礼ともてなし	S	1
50226	茶道文化の展開	S	1

2015年度から			
新科目コード	新科目名	ST	単位数
53631	文芸基礎講義	T	2
53101	文芸入門	S	1
53102	文芸Ⅰ－1	S	2
53103	文芸Ⅰ－2	S	2
53105	文芸Ⅰ－4	S	2
53106	文芸Ⅱ－1	S	2
53107	文芸Ⅱ－2	S	2
53108	文芸Ⅱ－3	S	2
53111	文芸Ⅲ－2	S	1
53113	文芸Ⅲ－4	S	1
53114	文芸Ⅲ－5	S	1
53633	文芸論Ⅰ－2	T	2
53634	文芸論Ⅱ－1	T	2
53635	文芸論Ⅱ－2	T	2
53636	文芸論Ⅱ－3	T	2
53638	文芸論Ⅱ－5	T	2
53639	文芸演習Ⅰ－1	T	2
53641	文芸演習Ⅱ－1	T	2
53642	文芸演習Ⅱ－2	T	2
53643	文芸演習Ⅱ－3	T	2
53115	文芸実践	S	1
53116	論文研究Ⅰ－1	S	1
53644	論文研究Ⅰ－2	T	1
53117	論文研究Ⅱ－1	S	1
53645	論文研究Ⅱ－2	T	1

7. カリキュラムマップ

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための科目が、どのように配置されているのか、各科目の関係性や配当年次などを示した、カリキュラムの体系性が俯瞰できる図です。履修計画の参考にしてください。

step1

文芸の基礎的な学びを始める

◆文芸の世界を深める

文芸コースの専門教育科目群

【文芸コースの入門】

S1	文芸入門	※1
TR2	文芸演習Ⅰ-1（創作初歩）	※1
S1	文章表現基礎	※1

◆知識を広める 芸術学科の専門教育科目

【文化と文芸の基礎を学ぶ】

S1 芸	神話学入門〔新設〕	※1
TR2 芸	文化批評概論〔新設〕	
S1 芸	世界の古典を読む〔旧・文芸Ⅰ-3（世界の古典）〕	
S1 芸	日本の古典を読む	
S1 芸	京都の文芸〔旧・文芸Ⅲ-5（文芸の京都）〕	
S1 芸	短歌と俳句〔旧・文芸Ⅱ-2（短歌・俳句・近現代詩）〕	

【取材することの基礎を学ぶ】

S1 芸	インタビューと取材の方法論 〔旧・文芸Ⅲ-2（インタビューと調査で書く・ネットメディアに書く）〕	※4
---------	---	----

◆自分のテーマを創造的に、あるいは論理的に文章表現する能力を身につける

step2

広く文芸の世界を知る

【さまざまな文芸の領域を学ぶ】

S1	文芸Ⅰ-1（日本文学）	
S1	文芸Ⅰ-2（外国文学）	
S1	文芸Ⅰ-4（小説の構造）	※2
S1	文芸Ⅱ-4（小説の技法）	※2
S1	文芸Ⅲ-1（エッセイ）	※3

【さまざまな文芸作品を書く】

S1	文芸Ⅱ-3（トラヴェル・ライティング）	
TR2	文芸演習Ⅰ-2（短編小説を書く1）	※2
TR2	文芸演習Ⅱ-1（短編小説を書く2）	
TR2	文芸演習Ⅱ-2（インタビューして書く）	※4
TR2	文芸演習Ⅱ-3（エッセイを書く）	※3

【論文の基礎を学ぶ】

TX2 芸	論文研究基礎演習
----------	----------

step3

自分の創作／研究テーマを探求する

【文芸の新たな視野を獲得する】

TR2 文芸論Ⅱ-3（文芸批評）

S1 文芸Ⅲ-3（現代小説の前線）

S1 文芸Ⅲ-4（作家研究）

【文芸の表現を拡張する】

TR2 文芸論Ⅱ-4（ノンフィクション）

TR2 文芸論Ⅱ-5（論理的に考える・書く）

自分の卒業研究を文芸創作
にするか研究論文にするか
を決めて、執筆に取りかかる

S1 論文研究Ⅰ-1
芸

TX1 論文研究Ⅰ-2
芸

S1 論文研究Ⅱ-1
芸

TX1 論文研究Ⅱ-2
芸

TX2 論文研究Ⅲ
芸

*履修上、必要な学生のみ

創作・研究の
総仕上げ

step4

自分の文芸作品／研究の完成を目指す

※の同番号はセット履修推奨科目

【文芸創作・研究論文の執筆】

TX8 卒業研究
芸

8. 芸術学科専門教育科目 スクーリング日程

○同一科目で複数日程がある場合は、いずれかの日程を選択して履修してください。

配当年次	科目名	スクーリング コード	スクーリング名称	単位	会場	日程	スクーリング 申込期※1
1年次～	芸術学概論	5010101001	芸術学概論K	1	京都	7/10(土)、7/11(日)	夏期
		5010101002	芸術学概論T	1	東京■	6/12(土)、6/13(日)	春期
	日本美術論	5010201001	日本美術論E1	1	遠隔	11/20(土)、11/21(日)	秋期
		5010201002	日本美術論E2	1	遠隔	9/18(土)、9/19(日)	夏期
	西洋美術論	5010301001	西洋美術論E1	1	遠隔	9/4(土)、9/5(日)	夏期
		5010301002	西洋美術論E2	1	遠隔	11/6(土)、11/7(日)	秋期
	アジア美術論	5010401001	アジア美術論E1	1	遠隔	8/7(土)、8/8(日)	夏期
		5010401002	アジア美術論E2	1	遠隔	2022/1/8(土)、2022/1/9(日)	冬期
	美術史学概論	5010501001	美術史学概論K	1	京都	7/3(土)、7/4(日)	夏期
		5010501002	美術史学概論T	1	東京■	5/15(土)、5/16(日)	春期
	音楽文化論	5010601001	音楽文化論E1	1	遠隔	8/21(土)、8/22(日)	夏期
		5010601002	音楽文化論E2	1	遠隔	7/17(土)、7/18(日)	夏期
	京都の歴史	5010701001	京都の歴史E1	1	遠隔	7/3(土)、7/4(日)	夏期
		5010701002	京都の歴史E2	1	遠隔	8/21(土)、8/22(日)	夏期
	文献資料講読	5010801001	文献資料講読E1	1	遠隔	6/27(日)	春期
		5010801002	文献資料講読E2	1	遠隔	7/10(土)	夏期
	京都学研修1	5010901001	京都学研修1K1	1	京都	11/6(土)	秋期
		5010901002	京都学研修1K2	1	京都	11/7(日)	秋期
	京都学研修2	5011001001	京都学研修2K	1	京都	4/24(土)、4/25(日)	春期
		5011101001	江戸の歴史	1	東京■	9/17(土)、9/18(日)	夏期
	神話学入門	5011201001	神話学入門K	1	京都	12/25(土)、12/26(日)	秋期
		5011201002	神話学入門T	1	東京■	2022/2/19(土)、2/20(日)	冬期
	世界の古典を読む	5011301001	世界の古典を読むK	1	京都	7/10(土)、7/11(日)	夏期
		5011301002	世界の古典を読むT	1	東京■	7/3(土)、7/4(日)	夏期
	日本の古典を読む	5011401001	日本の古典を読むK	1	京都	2022/1/8(土)、1/9(日)	冬期
		5011401002	日本の古典を読むT	1	東京■	9/11(土)、9/12(日)	夏期
	京都の文芸	5011501001	京都の文芸	1	京都	10/16(土)、10/17(日)	秋期
		5011601001	短歌と俳句K	1	京都	10/23(土)、10/24(日)	秋期
	短歌と俳句	5011601002	短歌と俳句T	1	東京■	11/20(土)、11/21(日)	秋期
	インタビューと 取材の方法論	5011701001	インタビューと取材の方法論K	1	京都	10/2(土)、10/3(日)	秋期
		5011701002	インタビューと取材の方法論T	1	東京■	10/23(土)、10/24(日)	秋期
	伝統芸能の諸相	5021901001	伝統芸能の諸相K	1	京都	10/9(土)、10/10(日)	秋期
		5021901002	伝統芸能の諸相T	1	東京■	11/6(土)、11/7(日)	秋期
	伝統芸能と工芸	5021901003	伝統芸能の諸相E	1	遠隔	11/6(土)、11/7(日)	秋期
		5022001001	伝統芸能と工芸K	1	京都	10/16(土)、10/17(日)	秋期
	詩歌と日本文化	5022001002	伝統芸能と工芸T	1	東京■	11/13(土)、11/14(日)	秋期
		5022201001	詩歌と日本文化K	1	京都	7/17(土)、7/18(日)	夏期
	花道文化の展開	5022201002	詩歌と日本文化T	1	東京■	8/14(土)、8/15(日)	夏期
		5022301001	花道文化の展開K	1	京都	12/18(土)、12/19(日)	秋期
	伝統文化の空間	5022301002	花道文化の展開E1	1	遠隔	12/18(土)、12/19(日)	秋期
		5022301003	花道文化の展開E2	1	遠隔	10/30(土)、10/31(日)	秋期
	室礼ともてなし	5022401001	伝統文化の空間K	1	京都	10/23(土)、10/24(日)	秋期
		5022401002	伝統文化の空間E	1	遠隔	6/19(土)、6/20(日)	春期
2年次～	論文研究基礎	5022501001	室礼ともてなしK	1	京都	7/10(土)、7/11(日)	夏期
		5022501002	室礼ともてなしT	1	東京■	7/17(土)、7/18(日)	夏期
		5022701001	論文研究基礎K1	1	京都	7/10(土)	夏期
		5022701002	論文研究基礎K2	1	京都	7/11(日)	夏期
		5022701003	論文研究基礎K3	1	京都	10/2(土)	秋期
		5022701004	論文研究基礎K4	1	京都	10/3(日)	秋期
		5022701005	論文研究基礎T1	1	東京■	6/5(土)	春期
	論文研究 I -1	5022701006	論文研究基礎T2	1	東京■	6/6(日)	春期
		5022701007	論文研究基礎T3	1	東京■	2022/2/19(土)	冬期
		5022801001	論文研究 I -1(芸術学)E1	1	遠隔	7/24(土)、7/25(日)	夏期
		5022801002	論文研究 I -1(歴史遺産)E1	1	遠隔	7/24(土)、7/25(日)	夏期
		5022801003	論文研究 I -1(和の伝統文化)E1	1	遠隔	7/24(土)、7/25(日)	夏期
3年次～	論文研究 II -1	5022801004	論文研究 I -1(芸術学)E2	1	遠隔	7/17(土)、7/18(日)	夏期
		5022801005	論文研究 I -1(歴史遺産)E2	1	遠隔	7/17(土)、7/18(日)	夏期
		5022801006	論文研究 I -1(和の伝統文化)E2	1	遠隔	7/17(土)、7/18(日)	夏期
		5022901001	論文研究 II -1(芸術学)[美術史系/芸術論・芸道論系]E1	1	遠隔	12/11(土)、12/12(日)	秋期
		5022901002	論文研究 II -1(芸術学)[歴史・伝統文化史系]E1	1	遠隔	12/4(土)、12/5(日)	秋期
	論文研究 I -1	5022901003	論文研究 II -1(芸術学)[美術史系/芸術論・芸道論系]E2	1	遠隔	12/4(土)、12/5(日)	秋期
		5022901004	論文研究 II -1(芸術学)[歴史・伝統文化史系]E2	1	遠隔	11/27(土)、11/28(日)	秋期
		5023001001	論文研究 I -1(文芸)K	1	京都	9/25(土)、9/26(日)	夏期
	論文研究 II -1	5023001002	論文研究 I -1(文芸)T	1	東京■	9/18(土)、9/19(日)	夏期
		5023101001	論文研究 II -1(文芸)K	1	京都	12/11(土)、12/12(日)	秋期
		5023101002	論文研究 II -1(文芸)T	1	東京■	12/25(土)、12/26(日)	秋期
	論文研究特論	5023201001	論文研究特論E1	1	遠隔	11/13(土)、11/14(日)	秋期
		5023201002	論文研究特論E2	1	遠隔	10/30(土)、10/31(日)	秋期
4年次	卒業研究(芸術学)面接指導※3	-	卒業研究(芸術学)前期面接指導① [美術史系/芸術論・芸道論系]K		京都	5/29(土)	-
		-	卒業研究(芸術学)前期面接指導① [歴史・伝統文化史系]K		京都	5/30(日)	-
		-	卒業研究(芸術学)前期面接指導① [歴史・伝統文化史系]T		東京■	5/29(土)	-
		-	卒業研究(芸術学)前期面接指導① [美術史系/芸術論・芸道論系]T		東京■	5/30(日)	-
		-	卒業研究(芸術学)後期面接指導② [美術史系/芸術論・芸道論系]K		京都	8/28(土)	-
		-	卒業研究(芸術学)後期面接指導② [歴史・伝統文化史系]K		京都	8/29(日)	-
		-	卒業研究(芸術学)後期面接指導② [歴史・伝統文化史系]T		東京■	8/28(土)	-
		-	卒業研究(芸術学)後期面接指導② [美術史系/芸術論・芸道論系]T		東京■	8/29(日)	-
	卒業研究(芸術学)口頭試問※3	-	卒業研究(芸術学)口頭試問 [美術史系/芸術論・芸道論系]K		京都	2022/1/22(土)	-
		-	卒業研究(芸術学)口頭試問[歴史・伝統文化史系]K		京都	2022/1/23(日)	-
		-	卒業研究(芸術学)口頭試問[歴史・伝統文化史系]T		東京■	2022/1/22(土)	-
		-	卒業研究(芸術学)口頭試問 [美術史系/芸術論・芸道論系]T		東京■	2022/1/23(日)	-
	卒業研究(文芸)面接指導※3	-	卒業研究(文芸)面接指導①		京都	5/22(土)、5/23(日)	-
		-	卒業研究(文芸)面接指導②		東京■	5/22(土)、5/23(日)	-
		-	卒業研究(文芸)面接指導②		京都	8/21(土)、8/22(日)	-
	卒業研究(文芸)口頭試問※3	-	卒業研究(文芸)面接指導②		東京■	8/21(土)、8/22(日)	-
		-	卒業研究(文芸)口頭試問		京都	2022/1/29(土)、1/30(日)	-
		-	卒業研究(文芸)口頭試問		東京■	2022/1/29(土)、1/30(日)	-

※1：各申込スケジュールは『学習ガイド2021』p.51をご確認ください。Web申込は申込締切日13：00まで。郵送申込は申込締切日【必着】。
※2：Web教材での事前学習が必要です。
※3：「卒業研究」(TX科目)に伴う対面授業のため「スクーリング日程」に含めています。指定された会場・日時に出席する必要があります。

9. 文芸コース専門教育科目 スクーリング日程

○同一科目で複数日程がある場合は、いずれかの日程を選択して履修してください。

配当年次	科目名	スクーリングコード	スクーリング名称	単位数	会場	日程	スクーリング申込期※1
1年次～	文芸入門	5310101001	文芸入門（読むこと・書くこと）K	1	京都	5/29(土)、5/30(日)	春期
		5310101002	文芸入門（読むこと・書くこと）T	1	東京■	6/12(土)、6/13(日)	春期
	文章表現基礎	5311801001	文章表現基礎K	1	京都	7/17(土)、7/18(日)	夏期
		5311801002	文章表現基礎T	1	東京■	5/15(土)、5/16(日)	春期
	文芸Ⅰ-1	5311901001	文芸Ⅰ-1（日本文学）K	1	京都	11/20(土)、11/21(日)	秋期
		5311901002	文芸Ⅰ-1（日本文学）T	1	東京■	11/6(土)、11/7(日)	秋期
	文芸Ⅰ-2	5312001001	文芸Ⅰ-2（外国文学）K	1	京都	10/9(土)、10/10(日)	秋期
		5312001002	文芸Ⅰ-2（外国文学）T	1	東京■	9/25(土)、9/26(日)	夏期
	文芸Ⅰ-4	5312101001	文芸Ⅰ-4（小説の構造）K	1	京都	8/7(土)、8/8(日)	夏期
		5312101002	文芸Ⅰ-4（小説の構造）T	1	東京■	8/14(土)、8/15(日)	夏期
	文芸Ⅱ-3	5312201001	文芸Ⅱ-3（トラヴェル・ライティング）K	1	京都	10/30(土)、10/31(日)	秋期
		5312201002	文芸Ⅱ-3（トラヴェル・ライティング）T	1	東京■	11/13(土)、11/14(日)	秋期
	文芸Ⅱ-4	5312301001	文芸Ⅱ-4（小説の技法）K	1	京都	9/4(土)、9/5(日)	夏期
		5312301002	文芸Ⅱ-4（小説の技法）T	1	東京■	11/27(土)、11/28(日)	秋期
	文芸Ⅲ-1	5312401001	文芸Ⅲ-1（エッセイ）K	1	京都	6/26(土)、6/27(日)	春期
		5312401002	文芸Ⅲ-1（エッセイ）T	1	東京■	8/28(土)、8/29(日)	夏期
	文芸Ⅲ-3	5312501001	文芸Ⅲ-3（現代小説の前線）K	1	京都	7/24(土)、7/25(日)	夏期
		5312501002	文芸Ⅲ-3（現代小説の前線）T	1	東京■	10/16(土)、10/17(日)	秋期
	文芸Ⅲ-4	5312601001	文芸Ⅲ-4（作家研究）K	1	京都	12/18(土)、12/19(日)	秋期
		5312601002	文芸Ⅲ-4（作家研究）T	1	東京■	9/4(土)、9/5(日)	夏期

※1：各申込スケジュールは『学習ガイド』p.51をご確認ください。

Web申込は申込締切日13:00まで。郵送申込は申込締切日【必着】。

※ 芸術学科専門教育科目/コース専門教育科目のスクーリング日程の「会場」欄に「遠隔」の記載がない場合も、インターネットでの事前/事後学習が必要になる場合があります。申し込みの際は各シラバスの「開講地」欄を確認してください。

参考：p.4「2. 一部スクーリングの遠隔化について」

10. 履修モデル

1) 1年次入学生年間履修モデル

1年次入学生（卒業要件124単位以上）が4年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルを以下に示します。

全体として、卒業研究に集中できるよう、高年次になるに従い修得単位数を少なくするようお勧めします。

実際の履修にあたっては、各自の関心に応じて適宜科目を入れ替えてください。

履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況・履修条件等をご確認ください。卒業要件については本コースガイドpp.7～10を、各科目の開講状況・履修状況等についてはシラバスの各科目を確認してください。

注1：TR＝テキストレポート科目 TX＝テキスト特別科目 S＝スクーリング科目 WS＝ウェブスクーリング科目（スクーリングの単位数に含みます）

注2：□新：2019年度以降入学生 ■旧：2015～2018年度入学生 △旧々＝2014年度以前入学生

●＝必修科目（必ず単位を修得することが求められる科目）

○＝選択必修科目（特定の科目グループのなかから所定の条件に従って科目を選択して必ず単位を修得することが求められる科目）

空白＝選択科目（単位を修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択することが必要（例えば総合計124単位以上を修得すること等））

1 年 目																		
科目群・区分	科目名	単 位 数	履 修 形 態 (注1)	□新 要件 (注2)	■旧 要件 (注2)	△旧々 要件 (注2)	春 期			夏 期			秋 期			冬 期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合 教育科目	ことばと表現	1	TR				レポート		試験									
	論述基礎	2	TR							レポート		試験						
	情報	2	TR				レポート		試験									
	外国語 1	2	TR													レポート		試験
	京都を学ぶ	2	TR													レポート		試験
	色彩と形	2	TR										レポート		試験			
	天文学・地文学・ 人文学への階段	1	S													2日間		
	英語1A	1	S								2日間							
学部共通 専門教育 科目	芸術史講義(近現代)1	2	WS										動画 視聴	レポート	講評 視聴			
	芸術史講義(近現代)2	2	WS													動画 視聴	レポート	講評 視聴
	美術史(ヨーロッパ)1	2	TR							レポート		試験						
	美術史(ヨーロッパ)2	2	TR										レポート		試験			
学科専門 教育科目	神話学入門	1	S												2日間			
	世界の古典を読む	1	S	●						2日間								
	日本の古典を読む	1	S													2日間		
	京都の文芸	1	S										2日間					
	インタビューと取材 の方法論	1	S	●									2日間					
	文化批評概論	2	TR	●									レポート		試験			
	地域芸術理論	2	TR													レポート		試験
コース専門 教育科目	文芸入門	1	S	●	●				2日間									
	文章表現基礎	1	S	●	●					2日間								
	文芸演習Ⅰ-1	2	TR	●	●					レポート		試験						
1年目の修得単位数・内訳		34																

2年目																		
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	新要件 (注2)	旧要件 (注2)	旧々要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合 教育科目	文化研究3	2	TR				レポート		試験									
	詩学への案内	2	TR										レポート		試験			
	日本文化論	2	TR										レポート		試験			
	アジア史	2	TR													レポート		試験
	日本史への階段	1	S									1日間						
学部共通 専門教育 科目	芸術史講義(日本)1	2	WS				動画 視聴	レポート	講評 視聴									
	芸術史講義(日本)2	2	WS							動画 視聴	レポート	講評 視聴						
	美術史(近現代)1	2	TR							レポート		試験						
	美術史(近現代)2	2	TR													レポート		試験
学科専門 教育科目	京都学入門	2	TR							レポート		試験						
	論文研究基礎演習	2	TX										レポート					
コース専門 教育科目	文芸Ⅰ-1	1	S	●	●									2日間				
	文芸Ⅰ-2	1	S	●	●							2日間						
	文芸Ⅰ-4	1	S	●	●						2日間							
	文芸Ⅱ-3	1	S											2日間				
	文芸Ⅱ-4	1	S	●								2日間						
	文芸Ⅲ-1	1	S	●					2日間									
	文芸演習Ⅰ-2	2	TR	●	●		レポート		試験									
	文芸演習Ⅱ-1	2	TR							レポート		試験						
	文芸演習Ⅱ-2	2	TR	●									レポート		試験			
	文芸演習Ⅱ-3	2	TR	●												レポート		試験
2年目の修得単位数・内訳		35																

3年目																		
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (注2)	■旧要件 (注2)	△旧々要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/選択	必修/選択	必修/選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	心理学	2	TR				レポート		試験									
	世界単位を考える	2	TR							レポート		試験						
	学際的な知への案内	2	TR							レポート		試験						
学部共通専門教育科目	芸術史講義(ヨーロッパ)3	2	WS				動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(ヨーロッパ)4	2	WS							動画視聴	レポート	講評視聴						
	芸術史講義(日本)3	2	WS										動画視聴	レポート	講評視聴			
	芸術史講義(日本)4	2	WS													動画視聴	レポート	講評視聴
	芸術史講義(アジア)1	2	WS										動画視聴	レポート	講評視聴			
	美学概論	2	TR													レポート		試験
学科専門教育科目	論文研究Ⅰ-1	1	S	●	●	●						2日間						
	論文研究Ⅰ-2	1	TX	●	●	●					レポート							
	論文研究Ⅱ-1	1	S	●	●	●									2日間			
	論文研究Ⅱ-2	1	TX	●	●	●								レポート				
コース専門教育科目	文芸Ⅲ-3	1	S	●						2日間								
	文芸Ⅲ-4	1	S												2日間			
	文芸論Ⅱ-3	2	TR	●			レポート		試験									
	文芸論Ⅱ-4	2	TR	●						レポート		試験						
	文芸論Ⅱ-5	2	TR										レポート		試験			
3年目の修得単位数・内訳		30																

4年目																		
科目群・区分	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新要件 (注2)	■旧要件 (注2)	△旧々要件 (注2)	春期			夏期			秋期			冬期		
				必修/選択	必修/選択	必修/選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合教育科目	日本史	2	TR				レポート		試験							卒業研究着手者は冬期に卒業関連科目以外の履修ができません。		
	哲学への案内	2	TR				レポート		試験									
	ヨーロッパ文化論	2	TR							レポート		試験						
	宗教学	2	TR							レポート		試験						
	文学研究への階段	1	S							2日間								
	伝統芸術基礎(茶の湯)	1	S										2日間					
学部共通専門教育科目	芸術史講義(ヨーロッパ)1	2	WS				動画視聴	レポート	講評視聴									
	芸術史講義(ヨーロッパ)2	2	WS							動画視聴	レポート	講評視聴						
	芸術史講義(アジア)2	2	WS							動画視聴	レポート	講評視聴						
学科専門教育科目	短歌と俳句	1	S										2日間					
	卒業研究	8	TX	●	●	●	レポート①		面接指導①	レポート②	面接指導②		レポート③		卒業成果物提出	口頭試問		
4年目の修得単位数・内訳		25																

4年間の合計		124単位(うちS47単位)	総合教育科目：計38単位	学部共通専門教育科目：計34単位	コース専門教育科目・学科専門教育科目：計52単位(うちS18単位)
--------	--	----------------	--------------	------------------	-----------------------------------

2) 3年次編入学生年間履修モデル

3年次編入学生（卒業要件62単位の編入学生）が2年間で卒業すると仮定した場合の年間学習モデルを以下に示します。
全体として、卒業研究に集中できるよう、高年次になるに従い修得単位数を少なくするようお勧めします。
実際の履修にあたっては、各自の関心に応じて適宜科目を入れ替えてください。
履修計画を立てる際は、卒業要件と各科目の開講状況履修状況等をご確認ください。卒業要件については『コースガイド』pp.7～10を、
各科目の開講状況・履修条件等についてはシラバス各科目のページを確認してください。

注1：TR＝テキストレポート科目 TX＝テキスト特別科目 S＝スクーリング科目 WS＝ウェブスクーリング科目（スクーリングの単位数に含みます）
注2：□新：2019年度以降入学生 ■旧：2015～2018年度入学生 △旧々：2014年度以前入学生
●＝必修科目（必ず単位を修得することが求められる科目）
○＝選択必修科目（特定の科目グループのなかから所定の条件に従って科目を選択して必ず単位を修得することが求められる科目）
空白＝選択科目（単位を修得するかしないかを含め自由に選択できる科目。ただし卒業要件で定められた修得すべき単位数を最低限選択することが必要（例えば総合計62単位以上を修得すること等））

1年目																						
科目区分・群	科目名	単位数	履修形態 (注1)	□新① (注2)	■旧① (注2)	△旧々① (注2)	□新② (注2)	■旧② (注2)	△旧々② (注2)	春期			夏期			秋期			冬期			
				必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学部共通専門教育科目	芸術史講義(日本)1	2	WS							動画 視聴	レポート	講評 視聴										
	芸術史講義(日本)2	2	WS										動画 視聴	レポート	講評 視聴							
	美術史(ヨーロッパ)1	2	TR													レポート		試験				
	美術史(ヨーロッパ)2	2	TR																レポート		試験	
学科専門教育科目	神話学入門	1	S															2日間				
	世界の古典を読む	1	S	●			●						2日間									
	日本の古典を読む	1	S															2日間				
	京都の文芸	1	S												2日間							
	インタビューと取材の方法論	1	S	●			●								2日間							
	文化批評概論	2	TR	●			●								レポート		試験					
	地域芸術理論	2	TR															レポート		試験		
	京都学入門	2	TR										レポート		試験							
	論文研究基礎演習	2	TX													レポート						
	論文研究Ⅰ－1	1	S	●	●	●	●	●	●						2日間							
	論文研究Ⅰ－2	1	TX	●	●	●	●	●	●					レポート								
	論文研究Ⅱ－1	1	S	●	●	●	●	●	●									2日間				
	論文研究Ⅱ－2	1	TX	●	●	●	●	●	●								レポート					
コース専門教育科目	文芸入門	1	S	●	●		●	●				2日間										
	文章表現基礎	1	S	●	●		●	●					2日間									
	文芸Ⅰ－1	1	S	●	●		●	●									2日間					
	文芸Ⅰ－2	1	S	●	●		●	●						2日間								
	文芸Ⅰ－4	1	S	●	●		●	●						2日間								
	文芸演習Ⅰ－1	2	TR	●	●		●	●					レポート		試験							
	文芸演習Ⅰ－2	2	TR	●	●		●	●		レポート		試験										
	文芸演習Ⅱ－1	2	TR										レポート		試験							
	文芸演習Ⅱ－2	2	TR	●			●									レポート		試験				
	文芸演習Ⅱ－3	2	TR	●			●												レポート		試験	
1年目の修得単位数・内訳		40																				

2年目																							
区分	科目群・ 科目名	単 位 数	履修 形態 (注1)	□新① (注2)	■旧① (注2)	△旧々① (注2)	□新③ (注2)	■旧③ (注2)	△旧々③ (注2)	春期			夏期			秋期			冬期				
				必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	必修/ 選択	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学部共通専門 教育科目	芸術史講義(近現代)3	2	WS							動画 視聴	レポート	講評 視聴							卒業研究着手者 は冬期に卒業関 連科目以外の履 修ができません。				
	芸術史講義(近現代)4	2	WS										動画 視聴	レポート	講評 視聴								
学科専門 教育科目	短歌と俳句	1	S													2日間							
	卒業研究	8	TX	●	●	●	●	●	●	レポート ①		面接指導 ①	レポート ②	面接指導 ②		レポート ③		卒業成果 物提出	口頭 試験				
コース専門 教育科目	文芸Ⅱ-3	1	S														2日間		卒業研究着手者 は冬期に卒業関 連科目以外の履 修ができません。				
	文芸Ⅱ-4	1	S	●			●								2日間								
	文芸Ⅲ-1	1	S	●			●					2日間											
	文芸Ⅲ-3	1	S	●			●						2日間										
	文芸Ⅲ-4	1	S															2日間					
	文芸論Ⅱ-3	2	TR	●			●			レポート		試験											
	文芸論Ⅱ-4	2	TR	●			●						レポート		試験								
	文芸論Ⅱ-5	2	TR													レポート		試験					
2年目の修得単位数・内訳		24																					

2年間の合計	64 単位 (うち S26 単位)	学部共通専門教育科目：計12単位	コース専門教育科目：計52単位（うちS18単位） 学科専門教育科目
--------	-------------------------------	------------------	--------------------------------------

11. 過去の「卒業成果物」閲覧申込

論文研究・卒業研究の学習を進めるにあたり、過去の卒業成果物を参考にしたい場合は芸術学科在学生でしたら本文全文の閲覧が可能です。大学に保管が無いものや執筆者が「閲覧不可」としている論文もありますので、閲覧を希望される場合は下記の手順に従い、申し込みを行ってください。

論文の探し方

(1) 卒業制作・卒業研究 作品・論文集から探す

通信教育部発行の冊子で、年度ごとに卒業生全員の研究（要約のみ）が掲載されています。瓜生山・外苑キャンパス事務局で自由に閲覧が可能です。

(2) airUキャンパスから探す

airUキャンパスの「アーカイブ」から各コース・年度ごとに確認できます。

閲覧申込方法

閲覧を希望する場合は、「学習・事務手続きに関する質問票」かメール（question@air-u.kyoto-art.ac.jp）またはairUマイページの「コンシェルジュ」で、下記を記載のうえ申し込んでください。論文を手配する都合上、閲覧希望日の1週間前までに申し込んでください。

件名：卒業論文の閲覧希望

1. 執筆者氏名・執筆年度
2. 執筆者所属コース
3. 論文題目
4. 閲覧希望日時（日程は2候補以上記載してください）
5. 閲覧希望会場（瓜生山キャンパスまたは外苑キャンパス）

閲覧方法・注意点

- ・ 瓜生山キャンパスか外苑キャンパスの事務局内でパソコン上または複写した紙媒体での閲覧となります。
- ・ 閲覧は、当日キャンパス内事務局フリースペース内でのみ可能です。閲覧後や席を離れる際は論文を事務局まで戻してください。
- ・ 時間制限は特にありません。一日で閲覧できない場合は再度希望日を申請してください。
- ・ 複写、印刷は出来ません。なお、ポイントをメモすることは制限していません。
- ・ 大学に保管が無いものや執筆者が「閲覧不可」としている論文があります。

12. 論文研究・卒業研究

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」（3年次～）、「卒業研究」（4年次）は、各々が自身のテーマを決めて学習の集大成にあたる卒業成果物をまとめあげるための科目です。各科目の詳細は、該当科目のシラバスを参照してください。

(3年次)	4月	5月	6月	7月
論文研究	「論文研究Ⅰ－1」スクーリング申し込みまでに…シラバスを確認し、創作／研究テーマを設定しましょう。	「論文研究Ⅰ－1」スクーリング受講申込 (夏期先行申込期間または夏期追加申込期間)		
(4年次)	4月	5月	6月	7月
卒業研究	レポート①提出	面接指導①		レポート②提出

STEP1 履修の前提条件を確認しましょう。

「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」「卒業研究」は、履修の前提条件が設定されています。各科目のシラバスの「履修の前提条件」、コースガイドの「卒業要件」「卒業研究着手要件」を確認し、計画的に学習を確実に進めていきましょう。なお、「論文研究Ⅰ－1～2」「論文研究Ⅱ－1～2」と「卒業研究」は、2年間で連続して受講することが望ましいです。

STEP2 まずは書いて読んでもらう。

スクーリング科目「論文研究Ⅰ－1」「論文研究Ⅱ－1」は、合評会スタイルの授業です。スクーリングの前に各自がどのような作品を書きたいかを考え、テキスト科目「論文研究Ⅰ－2」「論文研究Ⅱ－2」として実際に途中で執筆し提出します。それをスクーリングで他の学生や教員たちで読みあい、意見を交換します。スクーリング終了後、教員が作品に対する添削と講評をし、次のステップへと導きます。

テキスト科目

「論文研究Ⅰ－2（8月提出）」
「論文研究Ⅱ－2（11月提出）」

自宅学習でスクーリング科目の合評対象となる課題を作成します。構想や狙い、本文（途中で）を書きます。

スクーリング科目

「論文研究Ⅰ－1（9月）」
「論文研究Ⅱ－1（12月）」

同じように卒業研究着手をめざす学生たちや教員と、合評形式で発表をおこないます。教員や他者の意見を聞き、自分の研究あるいは創作を客観的に見つめ直します。

8月	9月	10月	11月	12月	2021年1月
「論文研究Ⅰ-2」 課題提出	「論文研究Ⅰ-1」 スクーリング受講		「卒業研究」に着手するためには、卒業年度の前年度末までに「卒業研究着手要件」を満たす必要があります。今一度履修状況を確認しましょう。		
「論文研究Ⅱ-1」スクーリング受講申込 (秋期追加募集期間に申込)			「論文研究Ⅱ-2」 課題提出	「論文研究Ⅱ-1」 スクーリング受講	卒業研究レポート①の作成にとりかかる
8月	9月	10月	11月	12月	2021年1月
面接指導②		レポート③提出		卒業研究提出	口頭試問

STEP3 テーマを決定し研究を進めましょう。

「論文研究Ⅰ-1～2」「論文研究Ⅱ-1～2」は、卒業年次の前年度に受講する科目です。受講にあたっては、「自分自身の研究テーマで、オリジナルな成果物を書く（自分で課題を見出し、解決の方策を探り、成果物を書き上げる）」という能動的な学習意識が必要です。

「論文研究Ⅰ-1～2」「論文研究Ⅱ-1～2」では、①テキスト科目で課題を作成、②スクーリング科目で合評形式の指導を行い、課題のブラッシュアップを行います。

テキスト科目

- ①「論文研究Ⅰ-2」（8月提出）
- ③「論文研究Ⅱ-2」（11月提出）

スクーリング科目

- ②「論文研究Ⅰ-1」（9月）
- ④「論文研究Ⅱ-1」（12月）

自宅で学習を進め、約1ヶ月の期間で次のスクーリング科目の合評対象となるレポートを作成します。スクーリング受講後、提出されたレポートに教員が添削を加えて、次のステップへと導きます。



教員と卒業研究着手をめざす学生たちと合評形式のスクーリングをおこないます。教員と顔をあわせて相談し、他者の意見を聞くことで、不安や迷いを解消し、自分の研究を客観的に見つめ直す機会になるはずです。

◆「論文研究Ⅰ-1～2」「論文研究Ⅱ-1～2」の翌年度に「卒業研究」に着手できない場合

「論文研究Ⅱ-1～2」に合格したにもかかわらず、その他の「卒業研究着手要件」が満たせなかったり、何らかの事由で「卒業研究」の着手を辞退（延期）する場合も、「卒業研究」に向かうための研究は必ず進めておきましょう。「論文研究Ⅱ-1～2」の翌年度に「卒業研究」に着手できなかった方を対象に、「卒業研究」を履修する前年度に研究の進捗状況を報告し、「卒業研究」の準備にあたる課題を作成する、テキスト科目「論文研究Ⅲ」という授業を開講しています。該当する皆さんは、ぜひ履修することをおすすめします。

13. 文芸コース提出物の指針

提出物に関して、以下の基本的なルールを守ってください。

体裁について

課題やレポートなどの提出物は、シラバスの「レポート課題」の欄の提出方法の指示に従ってください。

文芸コースの専門教育スクーリング科目で課されるレポート課題は、タテ書きでのみ受付けます。手書きの場合は、原稿用紙に黒インクの筆記具（鉛筆は不可）でタテ書きしてください。ワープロで作成する場合は、タテ書きで1ページあたり40字×30行に設定し、任意のA4用紙に印刷してください。ワープロソフトの原稿用紙設定などは使わないでください。字体（フォント）は明朝体、またはそれに準ずるものを用いてください。提出方法は郵送・窓口提出、または学習用webサイト「airUマイページ」からの提出が選択できますが、airUマイページで提出の場合はレポートをPDF化してから添付ファイルとしてアップロードしてください。なお、ページ番号をふることを忘れないでください（タテ書きの場合は左下に）。また、本文末尾に総文字数を記入することも必要です。

文芸コースの専門教育テキスト科目や総合教育科目・学部共通専門教育科目・芸術学科専門教育科目には、ヨコ書きでの課題提出が求められる、または認められる科目があります。airUマイページで提出する場合は、課題提出用のテキストボックスにヨコ書きのテキストを入力します。airUマイページで提出する場合は、改行や一行空けを多用しないように注意してください。日ごろ、SNSに書き込んでいる文章と、提出する課題の文章は違うということに留意してください。なるべく、事前にワープロソフトなどでレポートを作成し、推敲したうえでairUマイページにペーストするようにしましょう。

代筆、盗用、流用、使い回しの禁止

課題を第三者に書いてもらうこと（代筆）や、書物、雑誌あるいはインターネット上に掲載された文章を、部分的であれ、自分の書いたものとして使用すること（盗用）も許されません。代筆や盗用が発覚した場合は厳しく処分します。

他人の書いた文章を引用する際は、本文もしくは注において、必ず出典を明記してください。

さらに、自分自身の文章を使い回すことも避けてください。つまり、一度課題として提出したものを、部分的であれ、別の科目で再提出することはできません。文章だけでなく、同じ素材（エッセイのテーマや話題、創作上のプロットや逸話、論文における分析や引用など）を何度も使うことは、たとえそれが自分の関心事であっても避ける努力をしてください。

原則として、提出物は未発表のものに限られます。また、課題で提出した文章を、書物、雑誌あるいはインターネット上に掲載するのは、授業での評価が確定するまで控えてください。

文芸コースにおける表現の自由

文芸コースでは表現の自由を尊重します。文芸作品について、その内容に批評を加えるにせよ、作品自体を否定することはありません。提出されたレポートや課題についても同様です。大学教育の一環として、講評し成績評価を行います。レポートや課題自体を否定することはありません。

ただし表現の自由は社会的配慮によって制限を受けることもあるとも考えます。つまり、他者の個性や出自、また、民族、国、地域、宗教、思想などを侮辱する表現、差別的表現やヘイト表現、歴史を歪曲する表現は避けなければならないと考えます。

文芸コースには学生の作品をお互いに批評し合う「合評」という、学びの場があります。ここは結論ありきの議論を展開する場ではなく、また自己の主張を一方的に述べる場でもありません。開かれた批評の空間であり、自身の立場と同様にそれに反対する立場にも公平に開かれています。自他の表現の自由を尊重して、学業を追求していきましょう。

べを用いるが、原音になるべく近く書き表そうとする場合には、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェを使う。その場合、一つの文章中では、他の単語もその原則にしたがうようにする。

【例】 ヴァイオリン（バイオリン、violin） ヴィーナス（ビーナス、Venus）
ベートーヴェン（ベートーベン、Beethoven） ヴィヴァルディ（ビバルディ、Vivaldi） キャンヴァス（キャンバス、canvas） レヴュー（レビュー、review）
インタヴュー（インタビュー、interview）

(2) 長音および英語の語末の -er, -or, -ar, また -dy, -ty, -py などは、旧来は音引の「ー」を用いて書くことが多かったが、最近は省く傾向にある。一つの文章中ではなるべく一方に統一する。

【例】 メイク（メーク） レインコート（レーンコート） コンピュータ（コンピュータ） エレベータ（エレベーター）
トランジスタ（トランジスター） パーティ（パーティー） ダンディ（ダンディー）

9. 欧字と欧文の表記

縦書きに欧字や欧文を書く場合の注意。

(1) 単語や短文は、半角英数の横書きで入れる。

【例】

ジョンは出会うなり、Helloと手をあげ、笑顔で Nice to meet you と言った。

(2) 略語は、全角英数の縦書きで入れる。

【例】 彼は N P O で働いている。I C B M とは大陸間弾道ミサイルのことだ。

10. おぼえておきたい記述記号（約物の^{やくぶつ}）

(1) くぎり符号

。 句点、マル

● 「日本語表記の標準的なルール」は最終の28ページからお読みください。

、 読点、テン

・ ピリオド

， コンマ

・ 中黒（なかぐろ）

？ 疑問符

！ 感嘆符

/ 斜線、スラッシュ

(2) 括弧類

「」 かぎ、かぎ括弧

『』 二重かぎ

（ ） パーレン、括弧

〔 〕 亀甲（きつこう）

「」 ブラケット

〈 〉 山がた、山括弧

《 》 二重山がた

(3) つなぎ符号

ハイフン

— 全角ダッシュ *音引のーや、漢数字の一と間違わないように注意する。

—— 二倍ダッシュ

— 二分ダッシュ

〽 波形

… 三点リーダー

(4) するし物

* アステリスク

※ 米印

① 丸中数字

❶ 白ヌキ数字

在しないようにする（どちらの書き方にするか方針を決めて書く）。

(2) 複合の語（漢字二字以上を用いて書き表す語）の送りがなはそれぞれの漢字の送りがなをつけるが、読み間違えるおそれのない場合は、送りがなを省くことができる。

【例】

申し込む、申込む 打ち合わせる、打ち合せる、打合せる 聞き苦しい、聞苦しい

(3) 慣例により送りがなをつけない語がある。

【例】

関取 取締役 取扱説明書 西陣織 鎌倉彫 清水焼
小包 踏切 請負 両替 組合 手当 乗組員
子守 献立 日付 物語 割合 織物 建物 受付

7. 漢字の使い方

漢字の多い文章は紙面が黒くなり、読者にむずかしい印象をあたえる。また、パソコンで文章を作ると、ついつい漢字変換を使いすぎて、手書きでは書けないむずかしい漢字を使ってしまうので注意する。読者にとつての読みやすさを考慮して漢字とかなの使い分けをする。

原則として、漢字ではなく、かな書きにする言葉はつぎのようなものがある。

(1) 助詞

【例】 一〇歳くらい（×一〇歳位） 一〇グラムほど（×一〇グラム程）

教科書など（×教科書等）

(2) 感動詞

【例】 ああ（×嗚呼） ありがとう（×有り難う） おはよう（×お早う）

(3) 接続詞

【例】 あるいは（×或は） すなわち（×即ち） ただし（×但し） なお

（×尚）

(4) 形式名詞（主語にならない名詞）

【例】 そのうちに（×その内に） 聞いたことがない（×聞いた事がない）
いま来たところだ（×いま来た所だ） そんなときに（×そんな時に）

そういうものだ（×そういう物だ） 見たとおりに（×見た通りに）

あんなふうに（×あんな風に）

(5) 本来の意味が薄れていて、上の語の補助の働きをしている言葉。

【例】 ……という（×と言う） ……である（×で有る） ……でない（×

で無い）

……していく（×して行く） ……になってくる（×になって来る）

……になっている（×になつて居る） ……にすぎない（×に過ぎない）

……してみる（×して見る） ……してほしい（×して欲しい）

(6) 副詞（多数あるが、代表的なもの）

【例】 いっぱい ごく さらに ぜひ たくさん たとえ ちょうど なぜ
なにぶん なんと のちほど ほとんど ますます めったに いっそう いっ
たい いっぺんに きわめて けつして ことに ずいぶん すでに だいたい
たいへん たとえば たぶん むろん もちろん もっとも おもに たがいに
わりと いまさら なにかと

(7) 接頭語・接尾語

【例】 お菓子 太りぎみ 悲しげ 五分ごと 読みづらい 彼ら 私たち

低め

(8) 当て字など

【例】 あくび（×欠伸） おかしい（×可笑しい） ございます（×御座います）

ごまかす（×誤摩化す） でたらめ（×出鱈目） めちゃくちゃ（×滅茶苦茶）

8. 外来語の表記

外来語とは、外国語で、日本語表記をあてて用いるようになった語である。外国語をその発音どおりに日本語（カタカナ）で表記することには、そもそも無理がある。同じ外国語でも、日本語での表記がいくつかある場合があるが、一つの文章のなかでは、表記の統一をはかるようにする。

最小限注意すべきことはつぎの項目。

(1) ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェの使用

下くちびるを嚙んで発音するvは日本語にはないので、一般にはバ、ビ、ブ、

を省略できない。

数十人 何百年 二百数十メートル 二千百十数キロ

【例外】数量ではなく熟語のような言葉、たとえば「一枚上手だ」「一歩ゆずる」「一本釣り」「一番じょうずだ」「百も承知」「万が一」などは、単位語を省略したり、算用数字では表さない。横書きの場合も漢数字にする。

(3) 縦書きで算用数字を使用して書く表記

算用数字で表記するときは、単位語は「十、百、千」を省略し、「万、億、兆」は入れる。

二桁の数字は、半角数字を横に並べ（縦中横）、三桁以上は全角数字を縦に並べる。

【例】

21世紀 平成25年 12月31日 365日 350人

2時間10分32秒 18歳11ヵ月 100個 1000頭 5200円

0度3分 零下30度 41億9200万円

42・195 3分の2 5万分の1 100パーセント

【例外】漠然とした数（数字の前後に「数、幾、何」などがつく概数）は単位語を省略しない漢数字を使い、算用数字は使わない。横書きの場合も同様。

数十人 何百年 二百数十メートル 二千百十数キロ

【例外】ことわざ、歴史的用語、熟語、副詞として使われた次のような言葉は算用数字ではなく、漢数字を使う。

「百害あつて一利なし」「一石二鳥」「三三九度の盃」「三振」「一番美しい」「一等早い」

5. かなづかい

原則として、語を発音にしたがって書きあらわすが、慣習を尊重したいくつかの特例がある。

(1) 助詞の「は」「へ」「を」の表記。

【例】

私は、大学へパソコンを持っていく。

文章は「てにをは」がだいじだ。

こんにちば こんにちは

(2) 動詞の「言う」は、「いう」と書く。明確に「発音する」という意味の場合は「言う」と書く。

【例】

そういうことを言う ×そうゆうことを言う。

いうことを聞け ×ゆうことを聞け。

何というか ×何とゆうか

(3) 「ち」「つ」が連なることで濁音になった場合は、「ち」「づ」を用いて書く。

【例】

つづく（続く） ちぢみ（縮み） つづみ（鼓） つづる（綴る）

こぢんまり ちかぢか（近々） ちりぢり（散り散り） まぢか（間近）

つねづね（常々） つれづれ（徒然）

【例外】 いちじく いちじるしい

(4) 長くのばして発音する（長音）語の表記で注意すべきもの。

おとうさん（×おとおさん） きのう（×きのお） おおい（多い ×おうい）

おおきい（大きい ×おうきい） こおり（氷、郡 ×こうり）

とおい（遠い ×とうい） とおり（通り ×とうり） ほお（頬 ×ほう）

ほおい（炎 ×ほのう） かれい（鰯 ×かれえ） せい（所為 ×せえ）

6. 送りがなの付け方

(1) 送りがなは、その漢字の読み方を明らかにするために、漢字に添える「かな」である。読み間違われないように送りがなをつける、という考え方で行なう。

【例】

起こる、起きる（×起る） 当たる、当てる（×当る） 終わる、終える（×

終る） 変わる、変える（×変る） 混ざる、混じる、混ぜる（×混る）

集まる、集める（×集る）

*ポイントは、送りがなが二通りある場合（例えば「表す」「表わす」、「現れる」「現われる」、「行う」「行なう」など）は、ひとつの文章の中で二通りが混

【例】 クリエイティブ・ライティング ボストン・ティー・パーティー
ウィリアム・モリス W・S・ピーターソン

*中黒の代わりに二分ハイフン（ーまたは＝）を使うこともある。

【例】 アンリ・ジャン・マルタン

②名詞を並べるときに使う。

【例】 水星・金星・地球・火星

*読点「、」でもよい。 水星、金星、地球、火星

(6) 感嘆符・疑問符

① 感嘆符・疑問符の次は句読点をつけないで、全角アキとする。ただし、行末にきた場合と、かぎや括弧のウケ「』」「～」がつづく場合は、全角アキとしない。

【例】 いったい何の音だ？ 教室の隅のほうからパリパリという音が聞こえてくる。なんと学生がカタヤキソバを食べている！ 「キミ、そこで何をしているのだ？」と私は尋ねた。

② 感嘆符・疑問符のつく文で、その前後に文意の切れ目がない場合は、全角アキにしない。なお、この場合は（？）（！）という書き方もある。

【例】 いったい何の音だ？ と思つて教室の隅のほうを見ると、なんと学生がパリパリという音を立てながらカタヤキソバを食べているではないか！ しかも、うまそうな匂い（！）まで漂わせている。

(7) リーダーとダーシ

文中のリーダーとダーシの長さは、原則として二字分とする。

【例】 ということだが……。 ということだが――。

「えつ、……」「えつ、――」「……！」「――？」

*「大阪―京都間の新幹線切符」などの場合は全角ダーシ（二字分）とする。

(8) 行頭にきてはならないものは、つぎのもの。

句読点 感嘆符 疑問符 かぎや括弧のウケ「』」「～」

(9) 行末にきてはならないものは、つぎのもの。

かぎや括弧のオコシ「『」「（」「～」

4. 数字の書き方

縦書きでは漢数字（一、二、三……）を使用し、単位語（十、百、千、万、億、兆）を入れて書くのが原則だが、現在では単位語を省略する書き方も広く使われる。また、最近では、縦書きであるにもかかわらず算用数字（1、2、3……）を使用することも多くなっている。

(1) 縦書きで漢数字を使用し、単位語（十、百、千、万、億、兆）を入れて書く表記。

【例】

二十一世紀 平成二十五年 十二月三十一日 三百六十五日

五十年 三百五十人 二時間十分三十二秒 十八歳十一ヵ月

二十代 百個 千頭（二千頭） 五千二百円

零度三分 零下三十度 四十一億九千二百万円

四十二・一九五 三分の二 五万分の一 百パーセント

数十人 何百年 二百数十メートル 二千百十数キロ

【例外】 西暦には単位語を入れない。二〇一二年 一九九九年 六四五年

【例外】 小数の場合は「零・五」とはしない。〇・五

【例外】 次にあげるようなものは単位語を入れない。

電話番号、郵便番号、列車番号、部屋番号、国道など。

ダイヤル一〇番 千六〇六・八二七一 のぞみ二三七号 四〇一号室

国道一七一号線

(2) 縦書きで漢数字を使用し、単位語を省略して書く表記

単位語を省略するといつても、省略できるのは「十、百、千」で「万、億、兆」は入れて書く。

【例】

二一世紀 平成二五年 二月三二日 三六五日 五〇年

三五〇人 二時間一〇分三二秒 一八歳一ヵ月

二〇代 一〇〇個 一〇〇〇頭 五二〇〇円

〇度三分（零度三分） 零下三〇度 四一億九二〇〇万円

四二・一九五 三分の二 五万分の一 一〇〇パーセント

【例外】 漠然とした数（数字の前後に「数、幾、何」などがつく概数）は単位語

14・日本語表記の標準的なルール

日本語による文章は、漢字・仮名・ローマ字・アラビア数字・記述記号（句読点や括弧など）の組合せで書かれ（表記され）ますが、その書き方（表記）にはルールがあります。

日本語表記のルールは、唯一絶対のものではなく、時代により、また使われる場によりある程度の変化があります。社会一般で慣用されているルール、公的機関（官公庁など）で定めているルール、出版社や新聞社で独自に定めているルールなどがあります。

個人として文章を書くときにも、ルールにもとづいた選択肢の中から、自分なりの方針を選択することが大事です。一つの文章の中で、ある語句を漢字で書いたり、ひらがなで書いたり、また算用数字と漢数字を併用するなどの不統一な表記は避けましょう。

日本語には縦書き（縦組）と横書き（横組）があります。漢字の使い方、仮名づかい、送り仮名などは、縦書きと横書きでそれほど変わりませんが、数字や単位の表記、句読点などの記述記号の扱いがやや異なります。

文芸コースでは課題や作品を縦書きに書くことが一般的となります。以下に、日本語表記の標準的なルールを示しますので、これを参照して文章を書くようにしましょう。

1. 文体

- (1) 「……である」「……だ」調（常体・普通体）
- (2) 「……です」「……ます」調（敬体・丁寧体）

原則として、どちらかの文体を用い、二つを混用しない。

2. 段落

長い文章は意味のまとまりなどによって分ける。その一区切りを「段落」という。パラグラフともいう。

段落の一行目は一字下げる。

3. 記述記号

(1) 句読点

・縦書きには「。」を使う。横書きには「。」「、」または「。」「、」「か」「」の三種の方法があるが、いずれかで統一する。

・句点「。」は文末に使う。

・読点「、」は文の切れ目や、文の続きを明らかにするときに使う。

(2) 括弧類

① かぎ括弧「」は、会話、強調、注意を引きたい語句、引用文などをくくるときに使う。

② 二重かぎ『』は、①の「」の中でさらに会話、強調、注意を引きたい語句、引用文などをくくるときに使う。また、書名をくくるときに使う。

③ パーレン（ ）は、語句の説明などをくくるときに使う。

(3) 山括弧（ ）は、強調したい語句や、引用文をくくるときに使う。

① 「」が文中にあるとき。

□□□「□□□。□□□□」□□□□。

② 「」が文末にあるとき。

□□□□「□□□。□□□□」。

③ 段落の文全体が「」でくくられているとき。
「□□□□□□□□。□□□□□□□□」

④ 段落の最後の文が「」でくくられているとき。
□□□□。「□□□。□□□□」

(4) 句点とパーレンの関連——どこに句点をうつか。

① 直前の文に説明を加えたり、状況を示すとき。

□□□□□□□□（□□□□□□□□）。

② 文全体の注釈、筆者名、クレジットなどを示すとき。

□□□□□□□□。（□□□□□□□□）

(5) 中黒

① 外来語、外国の地名や人名のくぎりに使う。

